

1. 首里城と琉球王国の歴史

1372年 中山王・察度(さつと)、はじめて明に使者を送る

1406年 尚思紹(しょうししょう)《尚巴志(しょうはし)の父》中山王になる

1427年 龍潭(りゅうたん)を掘り、庭園を整備

1429年 尚巴志、三山(さんざん)を統一し「琉球王国」が成立

1453年 王位継承をめぐる争い「志魯(しろ)・布里(ふり)の乱」が起こり首里城が全焼

1501年 王家の墓、玉陵(たまうどうん)を造営

1522年 真珠道(まだまみち)が整備される

この頃(1527年～55年)龍樋(りゅうひ)、首里門(守礼門)を創建

1546年 防御の強化のため首里城東南の城壁を二重にして継世門(けいせいもん)を築く

1609年 薩摩軍3,000名の兵で琉球を攻める

1660年 失火により首里城が全焼

1672年 首里城が再建される。このとき正殿の板葺(いたぶき)を瓦葺(かわらぶき)に改める

1709年 失火により首里城が全焼



1712年 首里城の再建がはじまる

1715年 首里城正殿再建が完了する

1729年 正殿の玉座を中央に移し、「唐玻璃(からはふ)」と改名

1853年 アメリカ海軍のペリー提督、那覇に来航する

1879年 当時の日本政府が首里城明け渡しを要求し、国王がこれに従ったため
450年に及ぶ琉球王国は崩壊、沖縄県が誕生

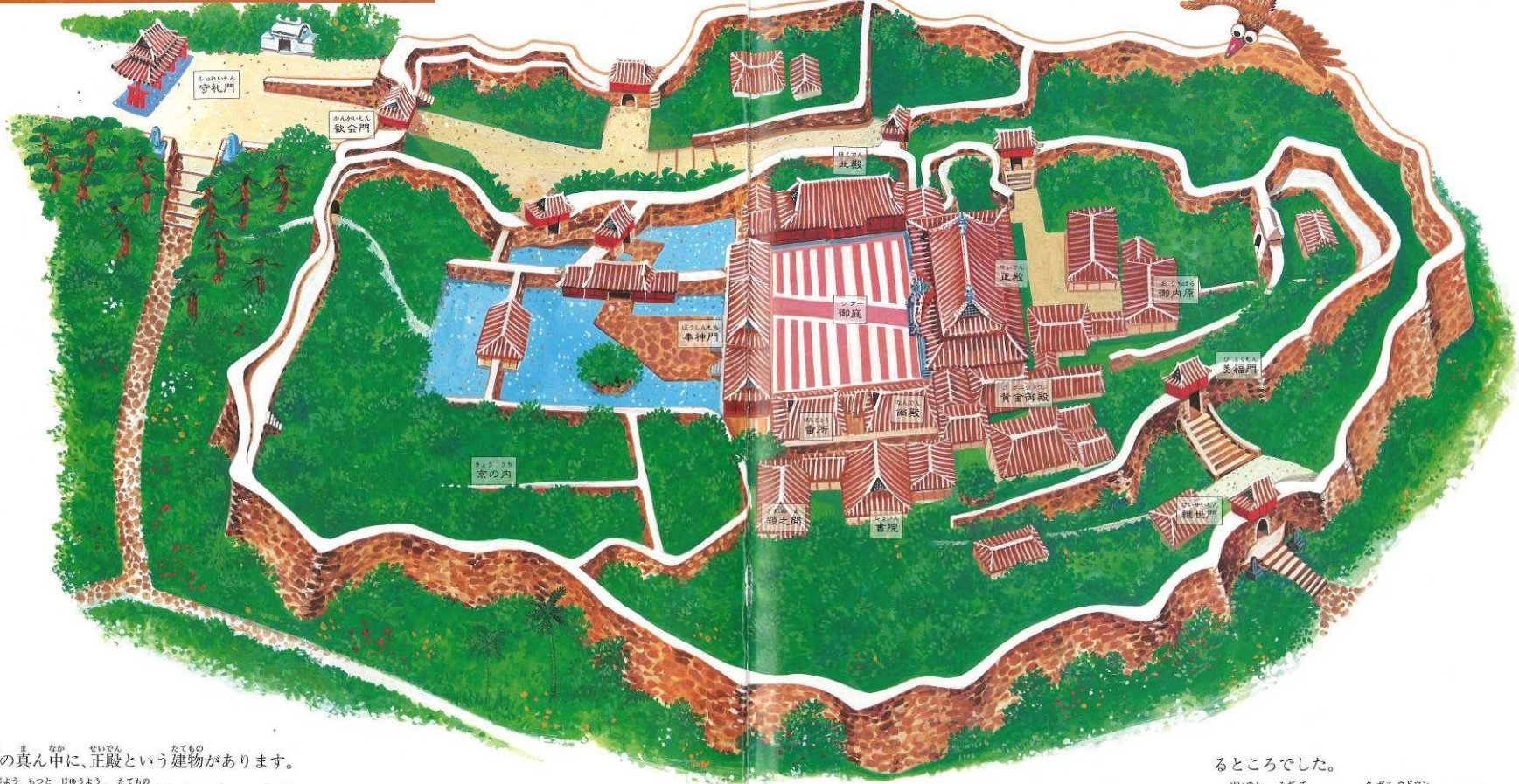
1945年 沖縄戦により首里城は壊滅する

1958年 守礼門を復元

1992年 首里城公園の一部が開園する



首里城の姿



首里城の全体を、空からみおろすと、石垣（城壁）に囲まれ、たくさんの建物が、その中に入ったことがわかります。

城の真ん中に、正殿という建物があります。首里城で最も重要な建物で、しかも、いちばん大きな建物でした。正殿のまわりには、北殿、南殿、番所、奉神門があります。そして、こ

れらの建物に囲まれた広場が御庭でした。御庭とそのまわりの建物は、首里城の政治や行

政の中心だったのです。

南殿近くの書院は、王様が日常の仕事をする

ところでした。

正殿の右手にも、黄金御殿をはじめたくさんの建物が並んでいます。そこは御内原と呼ばれ、王様とその家族が住んでいました。



首里城 正殿(しゅりじょう せいでん)